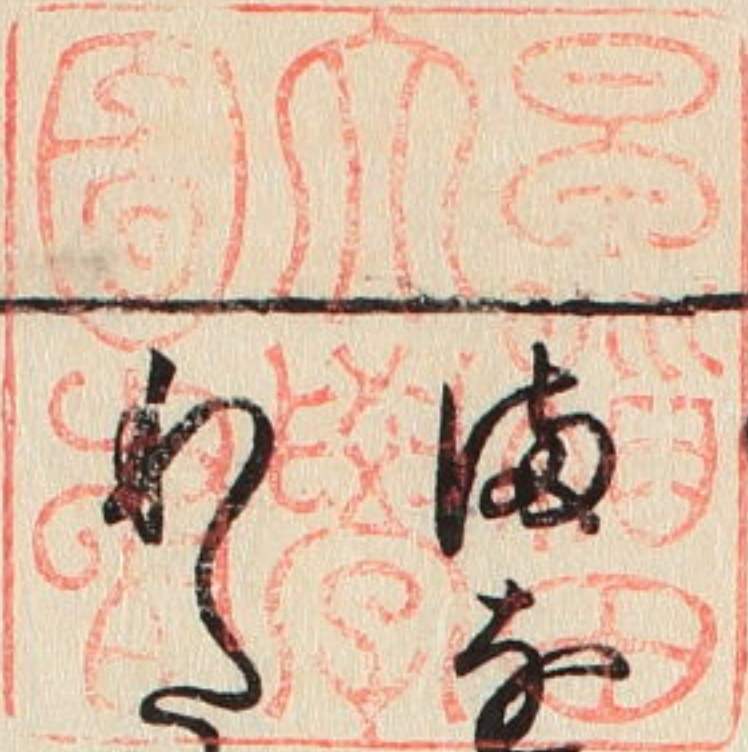


新編 源氏物語

113
781
41



明 選刻
第 781
卷 1



あし物抄序

ひるもやまらへんもの。心持く事は八十
由を。あつらひた本の。いふも。いふ
わらへんもの。是等なり。事と又。いふ事
乃。毎の事。種は五百と。字海より
此。あやし。と。あひけ。く。もの。是。文
宗利。あ。重。い。ふ。吾。友。を。氣。能。後。是



綾足上人著

あし物抄

全三冊

後篇嗣出



第九條

道能王の御孫にめされしと雖も其の
押勝頼の御孫

卷之三

第六條

其の九角丸が體を焼く其の保乃大進
に首の御孫

第七條

其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に
隠る白猪老人は其の御孫に御孫に

卷之四

第八條

其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に
其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に

ハ東國よりの御

第九條

其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に
其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に

卷之五

第十條

其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に
其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に

第十一條

其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に
其の御孫は其の御孫に御孫に御孫に

第十七條

守大伴名孫守稻種を白山より解る矣
物事初志を口承の故より来り

第十八條

信尾を丸より奪ひ解りて其子にあり
とりおろしく仔細の事なり

卷之十

第十九條

人置の志緒韓白の大神合神の如は
孫弓をの俊雄臣書決むる

第二十條

弓矢の俊雄人を志緒神に孫弓程
孫力に志緒を承る

卷之十一 是より後篇不出

第二條

孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫
孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫

第三條

孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫
孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫

卷之十二

第四條

孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫
孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫

第五條

孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫
孫弓の志緒神を承りて孫弓及孫

子力に形多ふ

卷之十二

第九六條

國々の弘孝良乃於よのがら赤乃鏡をか
ましく大伴宿禰書持白山よむる志めん
と云

第九六條

光明皇后浴室をましくまづる性来乃
人をらふひの小を舎あつて皇后より
かふる

卷之十四

第九七條

皇后ひそのよ書持よまの志ましくり
た

卷之十八

第九八條

何したまふ英書持佐保の席女よ別れ
を惜む
書持白山よむるひく物か英書持
死に

第九九條

大伴宿禰家持世御とし死立のよ
英書持か英魂わく英持よまのゆ
轉る言神陰勇よりうく樹皮
傍虎兄弟陰鏡を彼の二玉
奇凡よまふ

第二十條

卷之十六

第九一條

石原足元印はよりくえうとせらる
其家持山國の軍兵はよりく印はよる
蝦夷の林深カムイボンデントビカラ後堂を
わくはゆはりる

第九二條

テントビカラ義人をなふ

卷之十七

第九三條

志元押持家持をうりて和せ其カニボン
テントビカラ義人をなふ

第九四條

奇元が文弁はよりて其家持松島より
く石原内親王をわく急原

卷之十八

第九五條

足元よりくトビカラに内親王を符と
志元がトビカラ神孫の貴元をゆめく

第九六條

恒焼王恒焼とよりく清香王の姫に
わらふ其守部系王御射殺

卷之十九

第九七條

猪虎兄其守部系よつけどらる其姫は
て死のよよりく清香王をみと

第九八條

卷之二十一

第九條

ふらのついでんりやちちのつとむる
不波内親王は権威の養をいふはくは
ままよりそへかたしころあまのひ姫の墓
をめぐくはる

第四十條

うさぎをえんりえんか
宇佐八幡のあま天物集家
赤の赤女は侍り
阿曾麻呂政務をみる赤箱はよはる

卷之二十一

第四十一條

阿曾丸が家人泰金明徳は赤妻は
殺さる

第四十二條

赤原清河揚を祀をめぐむそのは流
にめぐむ

卷之二十二

第四十三條

清河松浦の浪子に赤原赤阿曾丸
めぐむ

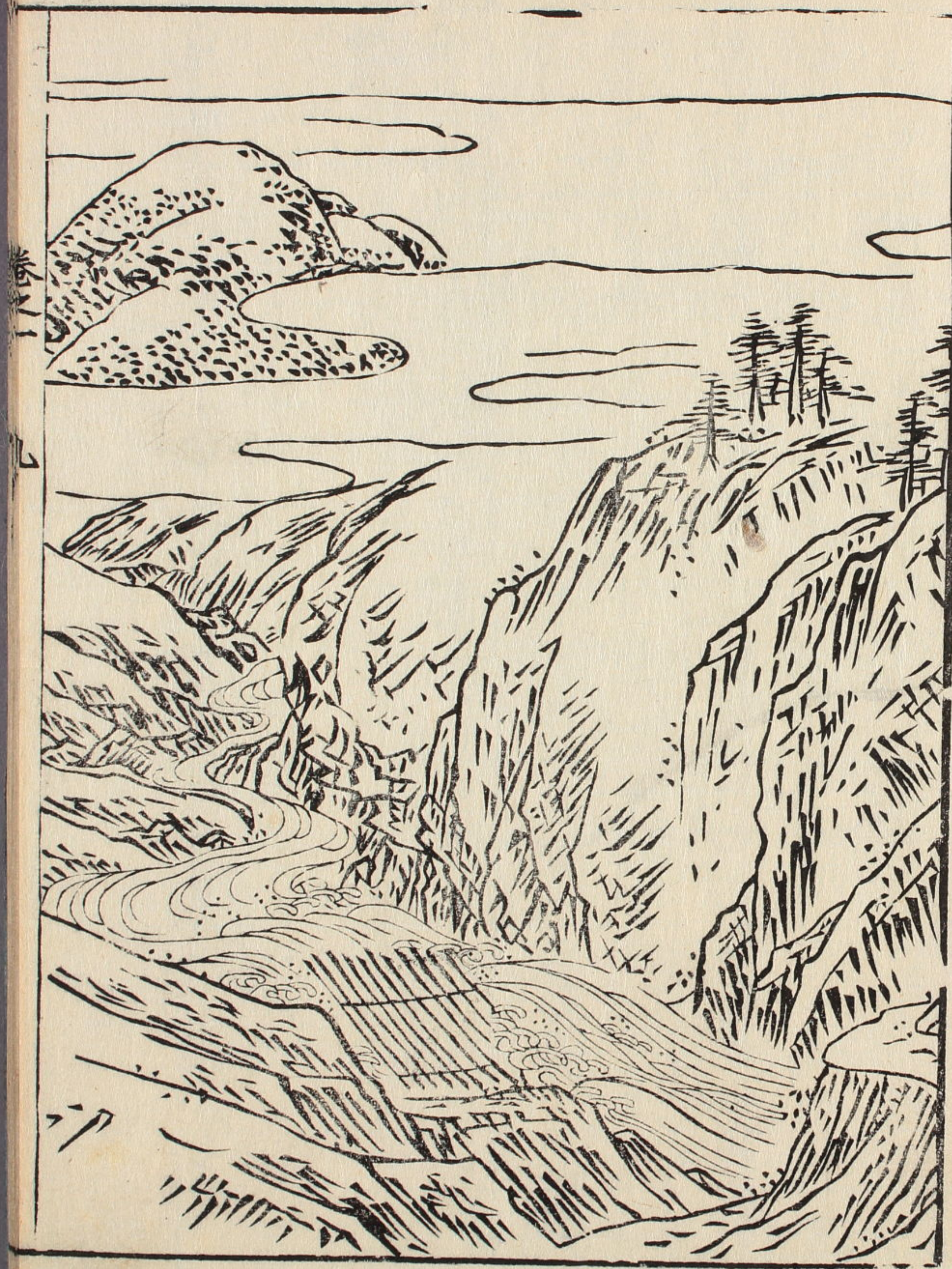
第四十四條

小治田連珠名はよめがうまひく昔
阿曾丸を討む

卷之二十三

第四十六條

金田根は赤く香椎の宮より赤
阿曾丸を討む



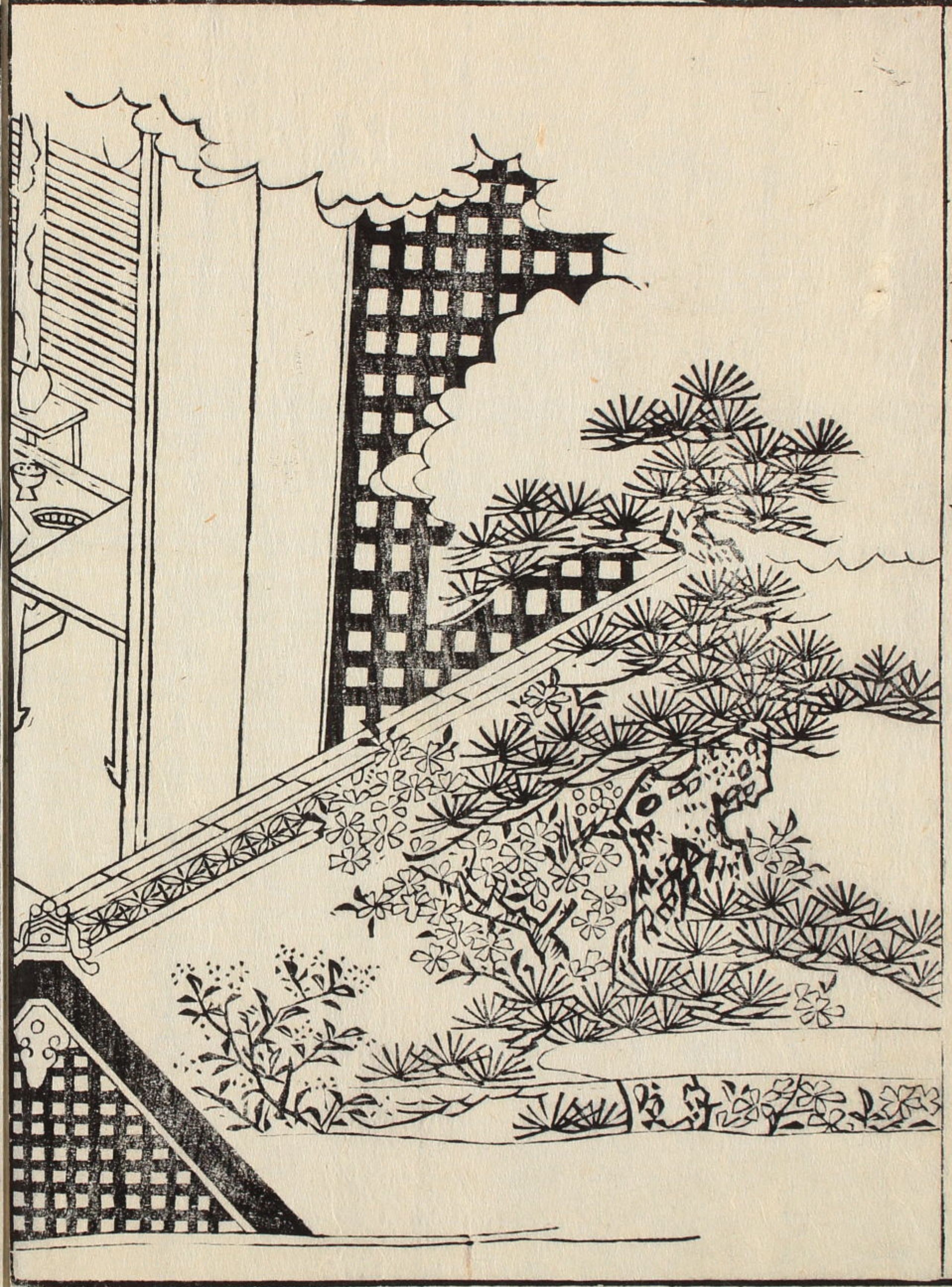
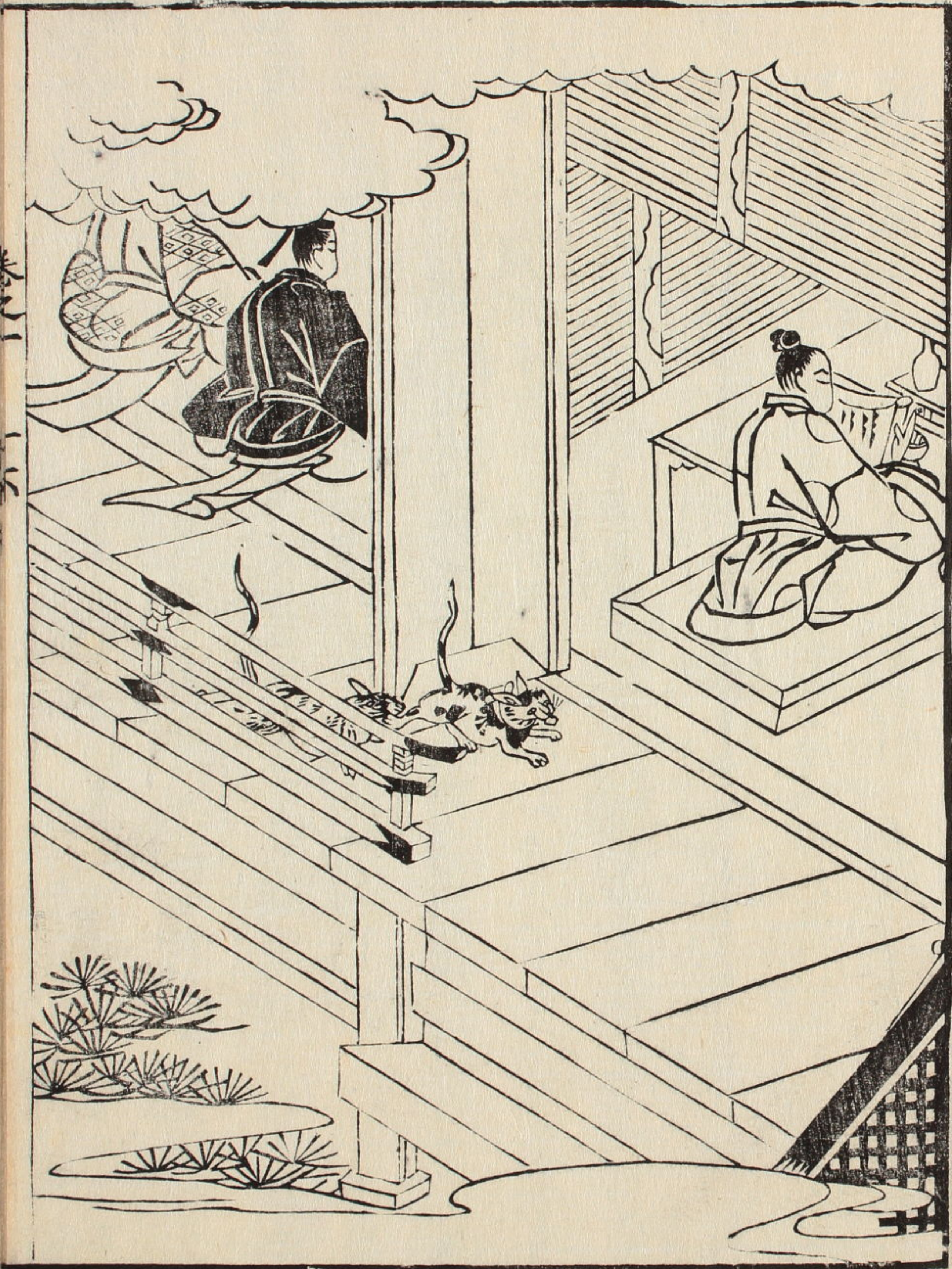
才一條

飛鳥信見系に沖代あらうめはこゝ天武天皇ありん若狭乃里に
 味指の氣といふありたり世乃葉もあらうか若狭の川は常流
 ならく絶流とらく飯飯に足沖棄て世をこらひたり。お
 ちと死川の辺にむく絶もあつむとあひ。被葉のををこらり
 なる絶ひひとりも考て大なる松の枝葉の乃流れかりと傳り
 ける流あわ絶乃松の枝は是が絶りく氷の竹葉はこそ絶もあ
 らぬならあ。是をさうらげく川の末へ流さむとらるる松の枝
 人のごとく絶ひく日絶る流るひそ家にもく絶りぬと絶ぬ

絶あやと絶りひさうういあが流をく持たりさればその松乃
 かつ枝より一寸さうる松葉は絶思のちひあつとみしが。さ
 がるにひびくと去さく。たけさく細き絶くけらひと
 貴元末通中と化り。白元赤きおかたねなる衣のうへは。松葉
 折の松とらかけ。絶るを葉を葉とあ葉、かざる葉をこ
 かさ。とあてやるる声して松乃葉とらうとくい山は絶れ。
 千年れを絶えんと絶りふさうとさこえさくを松の枝と絶
 て絶るあさくば枝乃かより絶るよかけへ。百絶は絶たすと
 しか。絶絶りくよ絶りく百絶よなり。是をわらうよ絶ふ
 とやせ。百絶乃枝は絶とみつうとさく産る百人の子あり

のまよてりしはあろしめし又清信を尊徳天皇文成にゆづりたまひ。
 つまよ考國ぬ天皇ハ元明皇勅詔奉らるるやうにゆひく。清信と信
 足姫天皇元正ぞうけつげりあつたよ考獨尊天皇ハ聖武清信と信
 内親王にゆづりたまひ別是る所天皇孝臣よそのまをかりたる。天皇御
 るに神腦おろしまたよあり。百官あひまびくけりたるに太宰府
 の阿蘇丸のけりく約よのけりくまざりたるが養くくやう。伊予の
 國而割の房よ。割の房と申。彼房者乃そよハ役小角がけりしは
 つまよきむふりあり。つらに其驗るにとあしそ是はけりく神
 祇傳はまつとせりらんハ。ならまち大御心傳くくさう坊ら
 んとすえらぶら。大佐信徳信見うけひとさうひ。其のけりはまきりくハ。
 うぶをせりひて。別りる丸子船よまゆりく伊豫より。そのは鏡
 をりく集れとるん信見のさうひり。まゆりくあしそをたかともりを中
 て従者いれとるし。出津志ハ使らるるむしは。畏くあると死ハ天
 務室元年二月十日己の時よまゆ良の教をまき。午の時よ大坂を
 越。今の市田。赤の障よ浪を乃浦よまき。里ハ八里と紙と紙を三時を
 さうれ。けり丸の浪の浦より沖津志鴨云船のふささ
 迷くけり。捨子四人をま。楸名二人をま。従者ハ浪花よま。只一人
 を側よま。びりせ。申のま。記さるるま。うに漕おたり。風のま。遊ひ
 うに捨子どもま。けりま。かをま。ま。漕撓。か。八十里ま。う
 のゆるを其秋の間に遊ひたり。て。十日の曉。弓割の房よま。ぬ。

のまよてりしはあろしめし又清信を尊徳天皇文成にゆづりたまひ。
 つまよ考國ぬ天皇ハ元明皇勅詔奉らるるやうにゆひく。清信と信
 足姫天皇元正ぞうけつげりあつたよ考獨尊天皇ハ聖武清信と信
 内親王にゆづりたまひ別是る所天皇孝臣よそのまをかりたる。天皇御
 るに神腦おろしまたよあり。百官あひまびくけりたるに太宰府
 の阿蘇丸のけりく約よのけりくまざりたるが養くくやう。伊予の
 國而割の房よ。割の房と申。彼房者乃そよハ役小角がけりしは
 つまよきむふりあり。つらに其驗るにとあしそ是はけりく神
 祇傳はまつとせりらんハ。ならまち大御心傳くくさう坊ら
 んとすえらぶら。大佐信徳信見うけひとさうひ。其のけりはまきりくハ。
 うぶをせりひて。別りる丸子船よまゆりく伊豫より。そのは鏡
 をりく集れとるん信見のさうひり。まゆりくあしそをたかともりを中
 て従者いれとるし。出津志ハ使らるるむしは。畏くあると死ハ天
 務室元年二月十日己の時よまゆ良の教をまき。午の時よ大坂を
 越。今の市田。赤の障よ浪を乃浦よまき。里ハ八里と紙と紙を三時を
 さうれ。けり丸の浪の浦より沖津志鴨云船のふささ
 迷くけり。捨子四人をま。楸名二人をま。従者ハ浪花よま。只一人
 を側よま。びりせ。申のま。記さるるま。うに漕おたり。風のま。遊ひ
 うに捨子どもま。けりま。かをま。ま。漕撓。か。八十里ま。う
 のゆるを其秋の間に遊ひたり。て。十日の曉。弓割の房よま。ぬ。



繪
卷

第三條

若原倉林呂石村村を養をるよりて及
系原更押勝を討てむに勅あり

大上天皇崩御よりくねむ志をくく後々て下と養をなり。
死する間ハ物後なども多かり。所などもとて。今ハもかり物
正かともされバ。死には皇の位御ゆり侍ひ。右宰府の所を
麻呂をバ。死養をるにあり。右宰府乃定。三浦御もく
禰り。そて死後ハ御側より侍ひ。死後とも同り。死後世の中
あは死節もゆり。死は若原倉林呂石村村を養をるより。西の
大御門

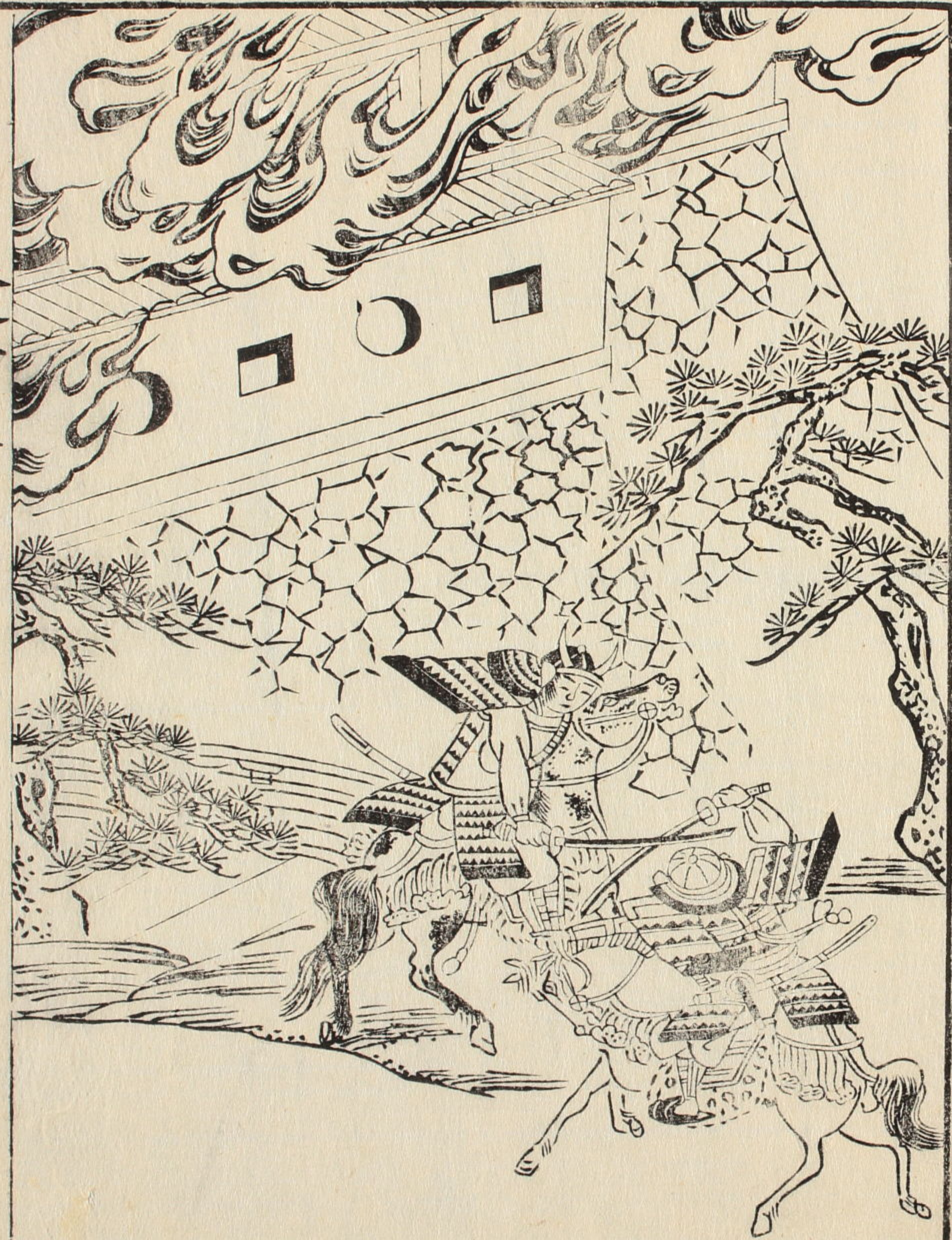


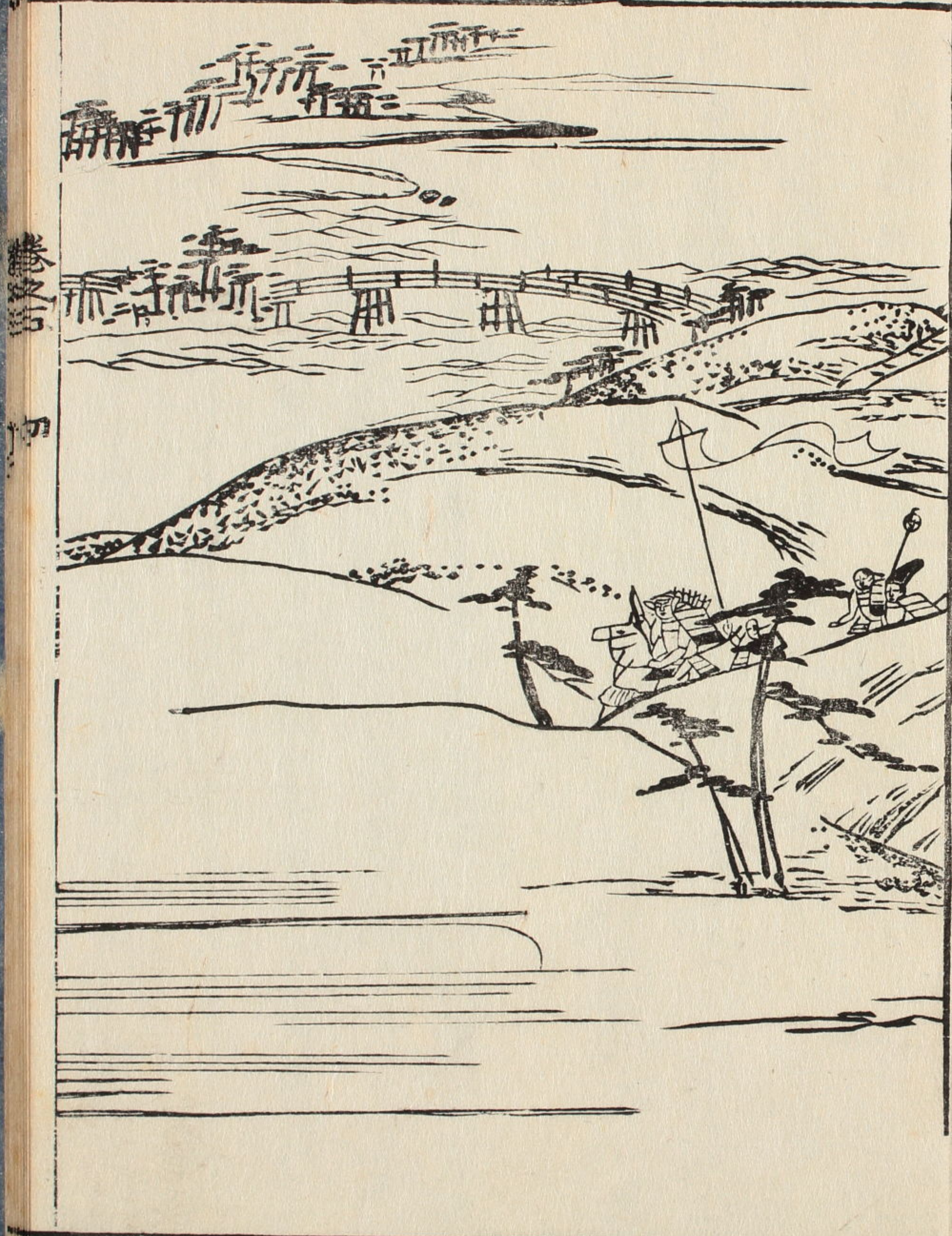
て海人にとりのお義を定められた後にも網子にやうくせうじよ。
 人々の心あわしむるはたな遠く家まで死体の母は正船決たやう。お主人
 らは帆を控へて三尾をさうらうしむと中に南麻呂とありよあうん
 とやう。情を控へたうし船中ありせを控へどもは控へて。ちかぢく
 もとの小船をよからし。さうしお義を定にかいあざれたあうん。船を十丁
 をうり控へて。はよ船及おとすあひよ。美田船老軍兵隊はくは橋
 五石船目親王乃正何と決算とく大津のきにもあうらるが浦人をいひ
 かへそのお主人ぞまあり船をよからせ。この船のあうりせ。さうし
 漕船あひやう。同めし海人どももきこふ。さうらよ乃決たはくは船
 後船よめられたるは是び。さうしと決た方より。お主人の三人あうん。に

りく。船船よめられたく網をどうせ。船をどうせ。あうりて控へひのた
 足元被る人十丁をうかぬこの西のよ。いさうらひの正船め。ひまき
 ばのよ。またあひるがまあひのよ。またお船き。ぬき。三人とあれ
 ば船をさうら。地をさうら。浦人どもが様をさうら。さうらんとおひの
 ひ。あまをあれいたく。みんな早船漕あせと苦き。よ。お船十人をうり
 をさうら。ほりせ。控へて。八人。薄をさうら。せなれば。一船。乃。島の。同。又。船。は。た。だ
 ぶき。く。あう。ぬ。船。は。い。よ。く。ひ。り。を。せ。て。お。た。ま。あ。お。遠。ひ。く。ま。あ。り
 たる。び。は。お。も。ら。ひ。船。の。い。よ。さ。う。ら。ひ。き。と。船。決。た。り。し。船。は。只。た。だ
 よう。せ。て。お。う。り。あ。う。ら。に。美。田。船。老。ち。う。く。系。お。是。は。ら。う。ぬ。ら。ひ。あり
 した。あ。た。か。と。控。へ。て。船。を。さ。う。ら。ひ。め。く。せ。う。ら。ら。あ。せ。た。あ。ひ。せ。ら。ん

君臣ハハもなるかちち中に西にせうひく。花の大木れうちたれる
 もとてまよひせあまよひ。血ひらうもあられが。まよひのげよ花はるるあると
 を新布くまあまの。まよひるんぞとわりの。まよひの秋あれハみどかく
 てうけぬ。まよひの末のまよひまよひをたあまよひ。唐のありのまよひのまよひ
 人なりとみえく。まよひらうく南の大門をひて。後文をひて。まよひのまよひ
 紅のつらく。まよひのまよひ。軍兵あ百人をひて。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 唐のまよひの。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 らあ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 かくまよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ

て。清にめせを。内舎人ホたあまほひをり。兵を法をせひ。世に方
 をまよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 をまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 ね。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 してまよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 なるまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 めむるまよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 東の軍兵とまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ
 まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ





卷之三
三



卷之三
三

死くもさうんきとくみまよよく妙なるぞひとろりつ決妙なるかこむら
 了を鏡たらし。女乃蒙来ども乃智く妙くもさう決是もさう死
 而決さうく押さうの鏡たもさうつら決ひ死あさく。石竹百親主
 子妙つくぐく一推(うま)押務が以下乃有十五の死さあさうつらきく。ひとろ
 く名決さうさくこれ決を軍若のり妙ひ正し。旗決を縁決を。
 我乃推さう佳儀をのり決り。あを推し。妙さうら妙さう。さく
 り妙決妙く。熊田決りさう石山決知え。字決をさく排川をさう。
 ちあ良山決知く。あよさうぬ左右の兵隊督を向ひく。さうを
 正し。我乃つらうさよ。始終妻細奏し。れば。天皇大御公おら。居り。
 よくさうらげせばとろりつらう。二重乃血骸さう。びよ。石竹百親主

の血骸ハ御位乃例をさう。累く。血骸。又押務をさう
 め以下之首ハ佳儀の大乃よさう。これ決をくる。決。死。さく。せよ
 とのさう。又倉丸材を軍物初。ハ。血骸。よめ。さく。血恩賞
 ささう。軍共どもハ例よま。せ。録。つ。く。な。ま。う。世の中いと
 ちづうよさう。さう。

第六條

惠美押務道程を。何れに
 惠美押務道程を。何れに
 惠美押務道程を。何れに

官軍いさく責さく。中の重乃。門は。火つ。死。く。さ。と。死。妙。の。れ。が
 家人の。ら。よ。年。以。お。ひ。た。の。め。る。氏。士。十。人。を。う。は。う。さ。う。決。あ。ね



てゆよ今ハ秋決王と稱くかづ死すも人千人よとえぬさてかく山
かりのをまよはせれど。昔悪ハりつとも多くたくく持ち。又藤袴に
こそわれかく極ひ志こそまをくむ。かのをぐさ流さる一はらび。まを
かくかりひるむ。ちよ乃かりまうたる。あひのゆがまうたるも。まを
祖の捨るるぬり。とて天よりおたげまう。くはらひ。まよまよあひ。婚を
ひやどづらひくひく。ゆよ。皆もたごひ。されば。あひら。毒のを。廿八日。湯
る。ぐ。と。そ。是。人。と。き。こ。ゆ。ま。ま。皆。来。ど。も。礼。儀。正。しく。か。つ。く。ろ。ひ。て。お。ん。
王。始。終。う。ま。う。り。あ。い。く。と。ゆ。か。あ。り。秋。舎。人。を。九。角。丸。二。人。ハ。兄。舎。子
堀。鏡。五。か。つ。び。よ。秋。通。祖。の。名。決。ま。く。難。決。あ。り。て。あ。ぎ。ひ。た。か。バ。秋
又。志。を。一。世。決。か。れ。ま。あ。り。び。今。あ。り。ま。ぬ。決。ま。く。ま。こ。ま。ま。む。と。の。ま。ひ

これ。を。決。か。こ。ま。り。決。か。さ。て。い。ま。ま。が。ま。ぬ。の。名。ハ。決。く。か。く。と。ゆ。に。
是。決。あ。り。た。ら。ハ。唯。毒。と。娘。の。ま。り。あ。り。あ。も。又。白。精。老。ま。と。あ。び。せ。り。の。あ
べ。と。そ。て。此。毒。意。は。ん。ま。も。か。保。心。存。ま。り。只。稱。ま。ど。も。が。り。あ。り。ま。さ。る。所
ま。歌。の。ま。り。と。そ。と。う。ら。ま。衆。の。ま。よ。と。死。決。ま。あ。く。ま。よ。た。そ。あ
る。ま。く。押。傍。よ。ハ。足。つ。死。た。ら。お。お。決。ま。あ。次。る。か。これ。ひ。く。と。く。意。毒。と
て。ま。ま。の。う。ち。よ。ハ。山。姥。紐。子。危。宿。山。羊。ま。う。の。圖。決。り。の。葉。ハ。百。合
菊。葛。薯。蕨。の。か。決。り。たり。正。石。ハ。信。石。と。留。石。の。く。信。者。ハ。蛇。多。信
無。防。門。と。虎。杖。の。部。よ。ひ。た。る。ま。り。山。姥。毛。桃。屋。を。ま。よ。ま。あ。り。死
ち。あ。よ。り。く。あ。せ。り。ま。決。ま。あ。め。ま。り。て。押。傍。より。軍。兵。あ。よ。り。ま。あ。り。て。
飲。ま。り。食。終。り。て。日。も。ま。く。く。の。か。ま。り。此。決。ハ。秋。通。よ。ら。ね。あ。り。て。か

海峽のたつたまのうしろにありては、
もつん。押務も軍共もせんらふべし。
よるん志ける

